

妊婦のパートナー男性

長時間労働ほど精神的苦痛強く

富山大エコチル調査富山ユニットセンターの稲寺秀邦名誉教授らのグループは28日、妊娠女性のパートナーの男性が、労働時間が長いほど強い精神的苦痛を感じる傾向があるとの調査結果を発表した。父親になることや家族が増えることが精神的な負担になっている可能性もあり、パートナーへの適切な労務管理や、職場や地域におけるサポート体制の構築が必要としている。

富山大エコチル調査

環境省の「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」の一環で実施。妊娠中の女性のパートナーである全国の男性4万4996人を対象に、残業を含む1週間の労働時間と精神的苦痛の度合いを尋ね、関連の有無を調べた。

その結果、週の労働時間が40時間以下の人に比べ、55～65時間のケースでは軽度の精神的苦痛を感じるリスクが1.12倍に、65時間を超えると1.34倍に上昇した。重度のうつや不安障害が疑われる「重度の精神的苦痛」に限ると労働時間が週65時間以上の場合、40時間以下と比べて1.84倍だった。研究成果は国際学術誌に掲載された。